

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目 次	Pages
➤ 年始のご挨拶	1
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	2
➤ 会員寄稿記事	4
➤ 会議・イベント案内	7
➤ 書積等の紹介	7
➤ 会員募集中	8

年始のご挨拶

2012 年、新年おめでとうございます。皆様におかれては日頃より JRRN のネットワークの活動にご協力いただき感謝申し上げます。

昨年我が国は 3 月の東日本大震災により、甚大な被害を受けました。被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げますとともに、早期の復興をお祈り申し上げます。

私たちはこの大震災によって科学技術の限界を問われるような多くの課題を突きつけられました。1 つは起こるはずがないと思っていたことが本当に起こったことです。今回の大震災がなかったら、現実には 30m を越える津波が起こるとはだれも信じないでしょう。大震災に限らず、起こりそうもないリスクに今後どう備えていくのか提起されました。もう一つ、快適な生活とリスクの問題です。原発なしでは電力不足で生活に支障が出ると言われていました。しかし、今回の原発事故のように未完成な科学技術に頼ってリスクを抱えつつ、快適な生活を追い求めることが本当に幸せなのか問われています。

河川再生でも、その技術は年々進歩して様々な河川再生ができるようになりました。しかし、技術だけでよいのでしょうか。夢想国師は「夢中間答」で「山水には得失なし、得失は人の心にあり」と述べています。日本人の心にある「自然観」は、「神話的自然感」を原点にして、時代を追って「仏教的自然感」が加わるなど、独自の自然感をつくりあげてきました。しかし、いつからか信仰心の喪失、欧米思想の導入などとともに、日本人の心に「自然感」と言えるものが消えてしまったようです。私たちは「自然感」無くしてふさわ

しい河川再生ができるのでしょうか。河川再生とともに日本の自然感も再生する必要があるのではないのでしょうか。今年は JRRN の中でもどんな「自然感」を持った河川再生を行うのかについて議論してみたらどうでしょうか。

JRRN では、主な活動として、国内外の河川再生の話題を集約してみなさまにお知らせしている週 1 ～ 2 回の「ニュースメール」、月 1 回の「ニュースレター」（このレターです）の発刊、河川環境ミニ講座の開催、また、河川再生の事例収集・分析および Web での公開を行っています。これらに加えて、JRRN は ARRAN（アジア河川・流域再生ネットワーク）事務局として活動しています。

昨年 11 月には 4 年ぶりに東京で、ARRN 運営会議と国際フォーラムを開催しました。また、3 月には「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集」を新たに発刊しました。さらに、既に作成した「アジアに適応した河川環境再生の手引き」のバージョンアップを進めています。

JRRN は現在、個人会員が約 540 名、団体会員が約 40 団体であり、順調に増加しています。JRRN 事務局としては情報提供や会員どうしが有意義な交流ができるようにさらに努力していきたいと考えています。JRRN は皆様の協力を得て、本年も多くの課題を乗り越えて河川再生の発展に貢献できるように努力していきますので皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

JRRN 事務局長 佐令純造

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

11/11 開催「第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」講演録(日本語版)発行のご案内

2011年11月11日(金)に開催しましたARRN/JRRN主催「第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」の講演録(日本語版)が完成しました。

本講演録では、講演者プロフィールや講演要旨とともに、オーストラリア、台湾、韓国、中国、日本の5人の講師の全スライドと講演内容、及び講演後に行われた全体討議の内容を掲載しています。

アジアの都市河川再生に関わる最新知見が集約されておりますので、皆様の河川再生の取組みにご活用頂ければ幸いです。

なお、英語版については1月中に取りまとめ、完成後はJRRN及びARRNホームページ内で公開致します。

また、本講演録の編集作業は、本行事の運営全般を担ったインターンシップ生の金子拓哉さんに担当頂きました。



※講演録はこちらからダウンロードできます

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/>

(JRRN 事務局・和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

2011 年の JRRN/ARRN 活動概要報告

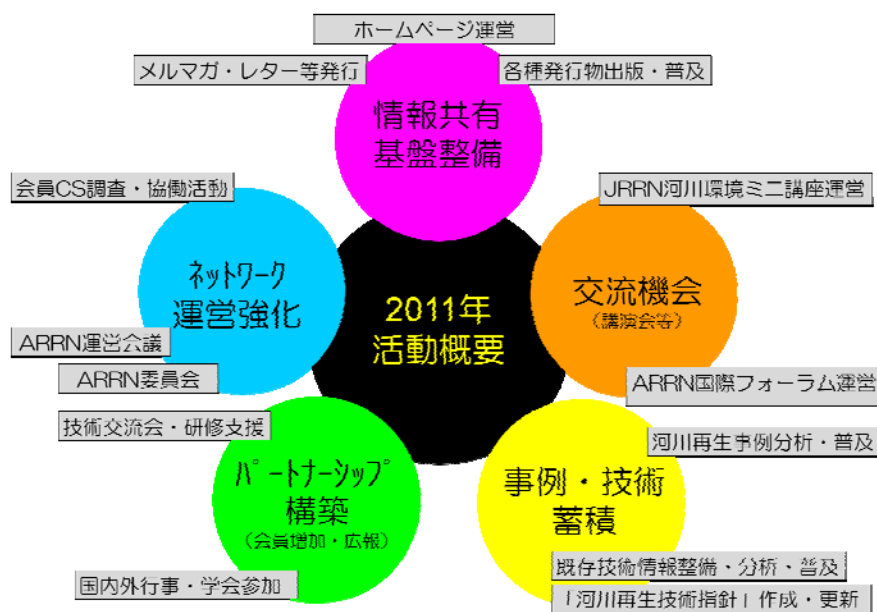
2011年は、JRRN及びARRNを通じて以下の図の様な活動に取組み、次ページ一覧表に示す活動成果を得ることができました。

日本を含むアジアにおける河川・流域再生に関わる情報・技術・経験の蓄積と共有、また交流機会の確保を目的として取り組んだこれら成果を、今後とも皆様の活動にご活用頂ければ幸いです。

なお、2011年の主な活動概要は、毎月発行のJRRNニュースレターでも報告させて頂きました。昨年に発行したJRRNニュースレター一式(12ヶ月分)は以下よりご覧いただけます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/JRRNactivity2011.pdf>

(JRRN 事務局・和田彰)



2011 年の JRRN/ARRN の活動概要図

2011 年の JRRN / ARRN 活動成果一覧

活動種別	活動成果	時期/頻度	対象	備考
情報共有 基盤整備	JRRN ニュースレター http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/	毎月・計 12 回	国内	10page/月
	JRRN ニュースメール http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsmail/	週 2 回・計 99 回	国内	-
	JRRN ウェブサイト（日本語版） http://www.a-rr.net/jp/	週 2 回更新	国内	-
	JRRN ウェブサイト（英語版） http://www.a-rr.net/jp/en/	不定期更新	海外	-
	ARRN ウェブサイト（英語版） http://www.a-rr.net/	不定期更新	海外	-
事例・技術 蓄積	アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 事例集 http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2527.html	2011 年 1 月	国内外	28 ページ
	よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～ http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2737.html	2011 年 3 月	国内	145 ページ
	第 7 回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録「台湾の河川事情」 http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2723.html	2011 年 5 月	国内	14 ページ
	桜のある水辺風景 2011 写真集 http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2774.html	2011 年 6 月	国内	14 ページ
	第 8 回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録「韓国と日本の魚道整備」 http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2953.html	2011 年 10 月	国内	24 ページ
	第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム講演録（日本語版） 「減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える」 http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/3051.html	2011 年 12 月	国内外	76 ページ
交流機会 (講演会等)	第 8 回 JRRN 河川環境ミニ講座開催（日韓魚道） http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2869.html	2011 年 8 月	国内	2 時間
	第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム開催 http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2985.html	2011 年 11 月	国内	4 時間
	第 9 回 JRRN 河川環境ミニ講座開催（中国生態系） http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/3044.html	2011 年 12 月	国内	1.5 時間
パートナーシップ 構築 及び 広報活動	JRRN 技術交流会 中国湖北省水利庁視察団	2011 年 1 月	海外	2 時間
	世界銀行主催「途上国地方政府研修」研修協力	2011 年 5 月	海外	3 時間
	2011 年度河川技術に関するシンポジウム発表	2011 年 7 月	国内	
	JRRN 技術交流会 台湾市民大学全国促進会視察団	2011 年 8 月	海外	2 時間
	応用生態工学会第 15 回金沢大会・日韓セミナー発表	2011 年 9 月	国内外	
	JRRN 技術交流会 埼玉県黒目川	2011 年 11 月	国内外	3 時間
ネットワーク 運営強化	JRRN 事務局定例会議	月 2 回・計 24 回	国内	2 時間/1 回
	第 1 回 JRRN 会員アンケート実施 http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/2642.html	2011 年 2 月	国内	
	JRRN/ARRN 年次報告 2010 発行（日・英） http://www.a-rr.net/jp/info/letter/annualreport/2588.html	2011 年 3 月	国内外	20 ページ
	第 2 回 JRRN 会員アンケート実施 http://www.a-rr.net/jp/info/letter/information/2847.html	2011 年 7 月	国内	
	ARRN 情報委員会開催	2011 年 8-10 月	海外	
	JRRN 事務局にインターンシップ生受入	2011 年 10-12 月	国内	1 名
	第 8 回 ARRN 運営会議開催	2011 年 11 月	海外	2 時間

会員寄稿記事(1)

愛媛県 多自然川づくりと地域住民との合意形成

寄稿者：藤原 美紀（鞍瀬塾事務局・JRRN 会員）

(1) 平成 23 年度多自然川づくり研修会の開催

住民主導の地域づくりを進めている「周桑いのちの樹」では、専門部会の東予環境グループと鞍瀬塾の主催にて、昨年度から 10 年の計画で「多自然川づくり研修会」を開催しています。

本研修会は、多自然川づくりの考え方から、事業の進め方まで多自然川づくりに関する事業全般を研修のテーマとして掲げています。

今年度は、西条市内で開催された横浜国立大学名誉教授(財)国際生態学センター 研究所長の宮脇昭先生の「いのちの森づくり」講演や愛媛県環境マイスターの山本貴仁先生の指導のもと、鞍瀬川における水生昆虫の生息調査、多自然川づくりサポートセンターから講師を迎え、多自然川づくり最新情報と全国事例について学びました。



生物調査の様子(上：5 月 15 日、下：8 月 28 日)

(2) 第 1 回研修会「いのちの森づくり」講演会と 第 2 回研修会「鞍瀬川水生昆虫生息調査」

第 1 回研修会は 8 月 9 日に西条市の総合文化会館大ホールに於いて、東日本大震災を受け「災害に強い森づくりとは」をテーマに、宮脇昭先生による「いのちの森づくり講演会」を主催者の西条石鎚ライオンズクラブ様のご厚意により併催しました。

研修会では潜在自然植生に基づく、真の生物多様性を維持し、二酸化炭素を吸収固定するための「いのちの森づくり」、大規模自然災害に耐え、生き延びてきた「ふるさとの森づくり」について宮脇昭先生より学びました。



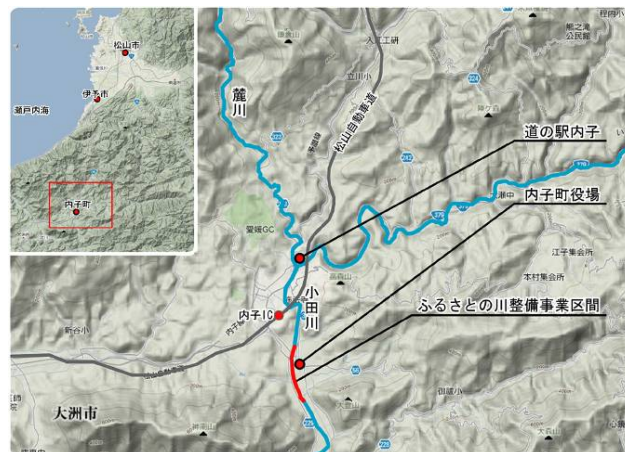
第 2 回研修会は、8 月 28 日に鞍瀬川を対象に水生昆虫調査を、愛媛県環境マイスター

いのちの森づくり講演会

の山本貴仁先生の指導のもと実施しました。鞍瀬川上流を対象とした生物調査は、私たち鞍瀬塾のメンバーが 20 年前から継続して春と夏の年 2 回実施しており、日本に生息している 3 種のヘビトンボすべての生息確認がされています。

(3) 第 3 回南予地区研修会のあらまし

第 3 回研修会は、11 月 29 日に松山市から高速で 1 時間の距離に位置する愛媛県内子町の五十崎自治センターで開催しました。



研修会開催場所

この研修会では、午前中にリバーフロント整備センターから派遣された講師より、「多自然川づくりの最新情報と全国事例」について学びました。

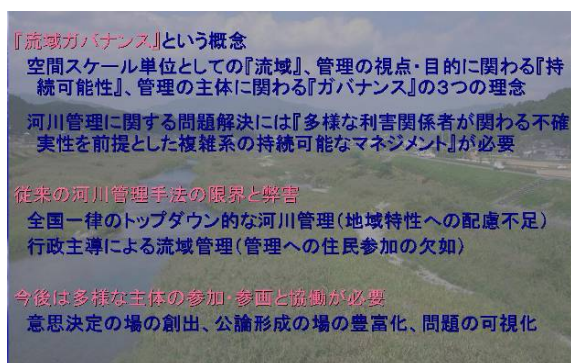
午後には愛媛県大洲土木事務所職員より、過去に整備された小田川のふるさとの川整備事業とこれから進めていく「小田川の河川整備」について、説明をいただき、その後現地見学会を開催しました。

この「小田川の河川整備」取り組みは、土砂の堆積、アシの繁茂、高水敷の樹林帯の成長、周辺地域の人口減少や高齢化、河川の近自然工法の発展など、小田川を取り巻く状況の大きな変化、住民の河川に対する意識の変化を受けて、住民や学識経験者などで構成する検討会を発足し、①河床掘削工事の施工方法、②多自然川型づくりの事業評価、③ミニ小田川の今後の在り方、方針について協議・検討し、小田川の河川整備を行うものです。

③のミニ小田川は、かつて小田川で実施された「ふるさとの川整備事業」において、より安全で親水性の高い水辺として子供達のために整備された人工河川です。あまりに人工的と批判のある一方で、子供の頃にミニ小田川で遊んだ世代には原風景の一つとも認識された水辺です。



流木等により埋没したミニ小田川
愛媛県大洲土木事務所提供



住民との合意形成の必要性

愛媛県大洲土木事務所発表資料より

検討会以外にも、内子町と合同で、住民のニーズ把握や合意形成を図るため、地域住民が参加したワークショップを開催しています。ワークショップでは住民から小田川の抱える問題点などの抽出、指摘洗い出しを行い、それら課題を検討会で協議します。その内容をワークショップに戻し、住民を交えた議論というプロセスを繰り返し、多様な主体の協働による計画検討をしていく計画です。

小田川の現地見学会では、愛媛県大洲土木事務所職員より土砂の堆積状況、検討会で検討している区間について説明いただきました。

(4) 現地見学を終えて

多自然川づくりは、ある意味では、終わりがありません。自然環境は常に変化します。社会環境もまた、変わっていきます。その時、その時の状況に合わせて、河川整備も維持管理も変わらざるを得ないのかもしれない。

今年は、東日本大震災が起きました。震災後、いろいろな反省がされています。人間の時間で考えるのではなくて、地球の時間で考える。何がよくて、何がよくなかったのか、その答えは、今を生きる私たちが出すのではなくて、時間が出すものだと思えます。

川は、山と海をつなぐ「みち」です。「みち」は、様々な「いのち」が出会い、交わる場所です。川づくりを進めていくときは、川ばかりを見るのではなくて、その川が流れる地域全体の自然環境、社会環境、歴史を知った上で、地域にすむ人々の合意のもと、地球時間で考えながら、試行錯誤をしていくことが大切なのではと考えています。



研修風景



現地見学会風景

水辺からのメッセージ No.32

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

造園家・小川涪兵衛の世界： 東山を借景とし琵琶湖疏水の水を取り入れた池泉廻遊式庭園



撮影：2011年11月（京都市左京区）

◆元老山県有朋が造営した別荘

明治時代、南禅寺周辺には琵琶湖疏水から水を引いた庭園のひとつである無鄰菴は、山県有朋の別荘として使われ、日露開戦直前には伊藤博文、桂太郎、小村寿太郎らと日本の外交方針を決める「無鄰菴会議」が開かれたことで知られます。

緩やかな傾斜地と細長い地形を生かし、東山を借景とした庭園（1896年完成）は、その後1941年に京都市に寄贈され、1951年には明治時代の名園として国の「名勝」に指定されています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内（2012 年 1 月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中です

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■都市における再生水利用に関する国際ワークショップ

○日時：2012 年 1 月 10 日（火） 13:30～17:00
○主催：国土交通省・北九州市 他
○場所：北九州国際会議場 2F 21 会議室
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3047.html>

■水辺の保全と琵琶湖の未来可能性

○日時：2012 年 1 月 14 日（土） 13:00～17:30
○主催：総合地球環境学研究所
○場所：ピアザ淡海 ピアザホール（滋賀県大津市）
<http://www.a-rr.net/jp/event/04/3046.html>

■第 163 回河川文化を語る会『日本人の「自然災害死史観」-紛争死史観との比較において-』

○日時：2012 年 1 月 17 日（火） 18:00～20:00
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2961.html>

■新河岸川流域フォーラム「つながる流域 ひろげる備え」

○日時：2012 年 1 月 21 日（土） 10:00～16:00
○主催：新河岸川流域川づくり連絡会
○場所：浮間防災ステーション
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3048.html>

■第 7 回川の日ワークショップ関東大会

○日時：2012 年 1 月 22 日（日） 10:00～16:00
○主催：第 7 回「川の日ワークショップ関東大会」実行委員会
○場所：川口フレンジア
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2904.html>

■平成 23 年度 川に学ぶ全国事例発表会

○日時：2012 年 1 月 27 日（金）
○主催：子供の水辺サポートセンター
○場所：東京海洋大学 品川キャンパス
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2989.html>

■第七回「外来魚情報交換会」

○日時：2012 年 1 月 28 日（土）～29（日）
○主催：琵琶湖を戻す会
○場所：草津市立まちづくりセンター
<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2988.html>

■第 164 回河川文化を語る会『川から広がるまちづくり～心おどる・水都・とくしまを、目指して』

○日時：2012 年 2 月 20 日（火） 18:00～20:00
○主催：公益社団法人 日本河川協会
○場所：厚生会館（全国土木建築健保）
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3026.html>

■第 6 回 日本の“いい川”シンポジウム&講習会

○日時：2012 年 3 月 3 日（土） 13:00～18:00
○主催：多自然川づくり技術普及研究会
○場所：発明会館 地下ホール
<http://www.a-rr.net/jp/event/03/3045.html>

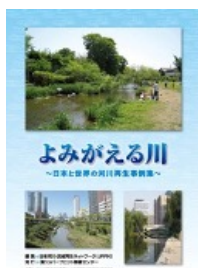
■皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に向けた様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。（JRRN 事務局）

書籍等の紹介

■よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～（2011.3 発刊）

- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
- ・発行：（財）リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



※本冊子の入手方法

本事例集をご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■多自然川づくりポイントブック III 中小河川に関する河道計画の技術基準・解説（2011.10 発刊）

- ・著者：多自然川づくり研究会
- ・編集：（財）リバーフロント整備センター
- ・発行：公益社団法人 日本河川協会（2011/10）
- ・価格：¥2,500（税込）



本書は、多自然川づくりのポイントブックの第 3 弾として、技術基準改定（平成 22 年）における河岸・護岸・水際部に関する具体的な解説とともに、ポイントブック II の内容に見直しを加え再編集されたものです。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

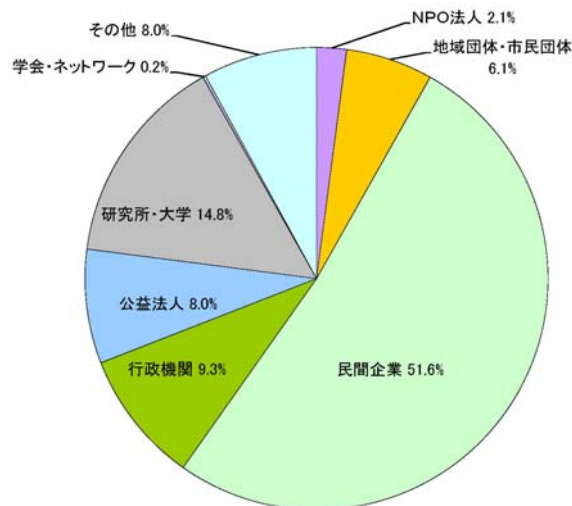
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011 年 12 月 28 日時点の個人会員構成
(個人会員数：538 名、団体会員数：41 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※ ¹	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※ ²	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※ ³	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※ ³	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※ ⁴	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※ ⁵	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※ ⁶	◎	△※ ⁷	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※ ⁸	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※ ⁹	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局
財団法人リバーフロント整備センター 内
〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階
Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センター
と(株)建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

リバーフロント整備センター
財団法人 Foundation
for Riverfront Improvement and Restoration

建設技術研究所
国土文化研究所